

森の恵みの材料を使って、自然の色を布に写し出す感動体験！

令和3年度 緑の少年団交流集会『森の色にバンダナを染めよう！』活動レポート

11月23日（祝日）に公益財団法人静岡県グリーンバンク主催による『緑の少年団交流集会』が静岡市駿河区の遊木の森にて開催されました。県内の4団体の少年団、計37名の子供たちが参加。当日は天候にも恵まれ、真っ青な空の下5チームに分かれて『森の色にバンダナを染めよう！』が行われました。



受付で検温と消毒を実施

はじまりの会でアイスブレイクタイム

当日は、受付にて、新型コロナ対策の検温、手指消毒を行い、午前9時30分に『はじまりの会』からスタート。当日のスケジュール説明や注意事項、スタッフ紹介を行った後、エコエデュスタッフによるアイスブレイクタイム。「今から言う色を見つけてタッチしよう！」「赤！」というスタッフの声に、子供たち周りをキョロキョロしながら紅葉の葉を触る子や軍手の赤いラインに触る子など、それぞれが問われた色を楽しく探していました。また、チームごとに分かれて「自然の中にある色を考えて発表しよう！」という問いには、各チームごとに分かれて相談。「藍色は？」「堇色もあるよ。」「桜色も！」など子供たちはチームの仲間と意見を出しあいながら真剣に考えていました。発表タイムでは、各チームから様々な自然の色が発表され、その都度納得する表情の子供たち。アイスブレイクタイムを通して、当日のテーマでもある「自然の色を意識する」ことができていました。



軍手の赤いラインを見つけたよ！



当日の材料（5種類）

まずは森の材料を知るところから！

まずはスタッフから染めの手順についての説明です。森から取ってきた5種類（栗のイガ、アオキの葉、桜の枝、シダの葉、センダンの葉）の材料を見た子供たちは興味津々。スタッフの材料説明に「桜の枝から何色がでるのかな？」「やっぱり桜の色がでるんじゃない」「えー、茶色だよ。」など子供たちの豊かな想像力が広がります。各チームからは「栗のイガがいいよね。」「枝がいい！」などの声が上がりました。「では、どのチームがどれを使うかはくじ引きで決めます！」スタッフの声に「誰がくじを引く？」「じゃんけんしよう！」というように各チームで代表者の選出が行われ、いよいよくじ引きです。責任重大の代表者は緊張しながらくじ引き箱に手を入れ、くじを引き抜いていました。思い通りの材料を手に入れたチームもいれば、違うものになったチームもありましたが、くじ引きという楽しいゲームで盛り上がりました。



運命のくじ引きタイム！

燃料になる材料を探しに行こう！

次に燃料になる材料をチームごとに実際に森に探しに行きました。前日が雨だったこともあり、湿っているものもありましたがそんなことは気にならない様子で次々に色々な材料を見つける子供たち。「見て見てオレンジのきのこが生えてる！」「これも染まるかな？」「この赤い実もいいんじゃない？」「あ！これ桜の枝でしょ？持っていこう！」「この葉っぱよく燃えそう！」など、まるで宝物を見つけたようにキラキラした目で材料を集めていました。



材料集めに出發！



大収穫！

集めた材料を使って火をおこそう！

事前にスタッフが用意していた材料と自分たちで集めたきた材料を使って火おこしです。まずは、火をおこすための準備から始めます。ドラム缶を半分に切ったコンロを男の子とスタッフと協力してセットした後、集めてきた材料の中から大きな枝をノコギリを使ってカットします。「僕 50 回くらいノコギリ使ってるからできるよ！」得意げな男の子の横から「私は 100 回！」と女の子。径 10cm 程の枝を交代しながら上手にカットしていました。ドラム缶に薪や葉をくべ、マッチを使っていよいよ火を付けます。子供たちは緊張しながらマッチを擦りますが、なかなか火はつきません。「もっと葉っぱを入れた方がいいよ。」「うちわで扇げばいいんじゃない。」など子供たちなりに工夫をしながら火おこしを行っていました。



ノコギリを使って材料をカット



緊張しながらマッチで火おこし

いよいよ染めの作業！

火がついたら、いよいよ染めの作業です。まずは鍋に水を入れてお湯を沸かします。お湯が沸いたら染めの材料を鍋の中に入れて 10 分間煮だします。10 分計るためにストップウォッチ係が任命されました。「あと 5 分！」ストップウォッチ係になった子は他の子が遊ぶ中、時間を気にしながらも遊びたい様子でしたが「5・4・3・2・1」「10 分たったー！」しっかりと与えられた役目を果たしていました。鍋を開けると茶色のような黄色のような色がでていました。それを見た子供たちは「なんかイメージしてた色と違う。」「キャベツみたいな匂いがする！」などそれぞれが五感を通して感じているようでした。

次は、煮だした液から材料を取り出し、布を入れる作業です。まずは布に模様を作る為に布を絞りタコ糸で縛ります。「私は 3 箇所縛る！」「どんな模様になるのかな？」縛りながら模様を想像しながら作業を進めます。上手に縛れない子がいると上級生の子が手伝ってあげるなど協力しながら進めていました。布を縛り終えたらいよいよ染め液に投入です。スタッフからまた 10 分間染めるという説明がありました。入れた瞬間に布に色が微妙に付くと「10 分したらどうなるのかな？」「もっと色が付くんじゃない。」とまたまた想像が広がります。子供たちは木べらを動かしながら布を染める係とミョウバンを作る係に分かれて作業をしていました。10 分後染めあがった布を取り出し、作っておいたミョウバン液に 5 分浸せば染めの作業は終了です。縛っていたタコ糸を切って広げると様々な模様が浮かび上がりました。「見て見て！私のはこんな模様になったよ。」「僕のはこんな丸がでた！」など、自慢気に見せあっていました。水洗いした後、ロープに干して乾かせば完成です。ロープに干されはためくバンダナは一枚一枚が異なる、世界に 1 枚だけのバンダナとなりました。



タコ糸で模様づくり



木べらでグルグル



きれいに染まったよ



最後に記念撮影

染めの体験を通して！

昼食後、それぞれのチームの代表が作ったバンダナの色に名前を付けて発表です。栗のイガで染めたチームが作ったバンダナの前で「この色は秋の森の落ち葉色です。」と言う名前を発表すると周りから「おー。」という声が上がりました。出来上がったバンダナはまさに黄葉した落ち葉の色を思わせる色だったからです。また「グループで協力してできて良かった。」という感想も印象的でした。その他「うす染め（思ったより薄かった）」「シダイエロー（材料のシダと染まった黄色の色の造語）」「ピンク色に染まると思ったら違った色」「クッキー（センダンの別名くつつき虫のクと黄色のキを合わせ名前）」など个性的で特徴を捉えた色の名前が生まれていました。子供たちは染めの体験を通して、自然の色の不思議さを感じ、豊かな想像力を育てていたように感じる交流集会でした。